

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2017年9月 84号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com

「こんにちは」で迎えられた

日本語授業はじめた新設高校 「豪雨」はカンボジアにも

成田空港からの全日空直行便がプノンペン空港に着くと、出迎えのコーディネーター、ソアンさんが「ことしのカンボジアは雨が非常に多いです」とあいさつ代わりに言った。4月から10月までの雨期のちょうど真ん中、7月2日から1週間のカンボジア訪問だったが、なるほど、田んぼは冠水しているところが多く、1日に1回は降るスコールは勢いよく道路の土を跳ね返していた。日本ではちょうど福岡・大分で大きな豪雨禍があったときである。

経費節約のため、補助教材を仕入れた後、プノンペンに1泊することなく、支援先のプレイヴェン州に直行する。今回の訪問目的は学期末を控え、18年度奨学生の面接。これから高校に進学する中学9年生（小学校から通して数える。日本の中学3年生と同じ。高校にはいると10年生）が7中学校50人、高校奨学生で新学期に11年生と12年生になる5高校102人の計152人、小中学校の先生を目指す教員養成所（2年制）学生4人、大学生3人、全部で159人の面接である。

（写真：プレイトープ小中学校校庭のコンクリート造りのテーブルと椅子で奨学生の面接。右が岡宮喜雄さん、左が池内秀樹さん）

退学して「カジノ」へ就職

プノンペンへの出稼ぎ、結婚などさまざまな理由で、中途退学するKEAF奨学生が毎年、5、6人も出るが、ことしも3人が経済的な理由で退学した。タッコー高校では、秋に10年生になるは

ずの女生徒1人が2月に退学。ベトナム国境に近いところにあるカジノの従業員になった。校長先生は「本人は親類からこの職場を紹介されて、（家計の助けになる）チャンスと思い、高校ぐらいいは出た方がいいとの学校側の説得を振り切ったの退学だった」と説明した。国道1号線の支線、312号線の行き着くところの国境の手前の野原にぽつんと1軒だけカジノ施設がある。ホテルを備え、ベトナム人専用だという。プノンペンの縫製工場の労働・生活条件もよくないが、この施設もあまり働く環境が良いとはいえない場所だけに「あそこへ行くのだろうか」と残念な気持ちになる。

優秀成績の1人は先生志望

コンポントウラバイ高校では、教員養成所に通う2人の女学生に面接した。いずれも全国共通の

大学進学試験でBを取った。Aは全国でも10人足らず、それに次ぐBは極めて優秀な生徒だ。

このうちのひとり、フム・スレイニックさんはプノンペン大学の奨学金受給資格試験にも合格したのだが、「経済的な理由で、小学校の教員になることにしました」という。

彼女は高校時代、KEAFの奨学生でもあった。奨学金は「下宿代や生活費に充てたい」と語った。教員養成所は州都プレイヴェンにあるため、下宿生活が必要なのだ。

一斉に日本語であいさつ

プラティアート中学校はベトナムのホーチミン市へ向かう国道1号線から南にそれて約5-6km、隣のスヴァイリエン州に近い田舎にある。ここで9年生10人、10-11年生22人との面接を始めようと新校舎の図書室で待っていると、生徒たちは入ってくるなり、「こんにちは」と一斉にあいさつした。（3頁右段はじめに続く）⇒



フン・セン長期独裁体制が動揺

地方選で「草の根民主党」が躍進 首相陣頭指揮もかなわず

カンボジアではことし6月4日、地方選挙が実施され、発足後2年足らずの地域政党、農民のための農民党ともいえる「草の根民主党」がカンボット州など一部地方で候補者を立てて予想以上の得票を集めた。ある調査では与党人民党51%、最大野党の救国党が47%の得票率だったとの数字も挙げられ、過去3回の地方選挙で圧勝してきたフン・セン首相の人民党の一角に風穴を開けた、といえるようだ。

地方のコミューン(3~4村からなる末端行政区)の評議員を選出する地方選挙であり、国際的にはあまり注目されなかったが、現地では与党人民党はじめ野党系諸党の大規模な選挙キャンペーンが展開された。何十年も選挙には出てこなかったフン・セン首相自ら、プノンペンの大規模集会に出席して支持を訴えたほど。

2013年の総選挙ですでに人民党の勝利に陰りが見えてきていることもあって、首相は来年の5年ぶりの総選挙を控えて、国民の政治意識が変わりつつあると政権の維持に大きな危機感を募らせているようだ。

「1強支配」で与党は形骸化

背景にはフン・セン政権が進めてきた外資頼りの経済運営で貧富の格差が広がっていること、人民党の1党独裁が長期に及び、1党支配というより、フン・セン首相個人の専横ともいえる政権運営が党員の嫌気を誘い、党自体の形骸化が進んでいることがあると指摘される。野党系の各種集会に対抗して与党人民党もこの春プノンペンで大きな政治集会を企画し、4万人を動員した。集会参

加者は締め付けが厳しいので、参加はしたものの、名簿に名前を記帳したあとは、流れ解散のようになってしまったという。

フン・セン首相は集会で、かつてポル・ポト政権から命がけでベトナムに逃れて後、ポル・ポト政権打倒の先頭に立ち、以来いかにして自分がカンボジア復興に全力を挙げてきたかを、涙を流して訴えた。この姿が話題となり、「フン・セン首相の影響力低下」のしるしだと、冷ややかに受け取る向きが多いという。7月7日付プノンペン・ポスト(英字紙)は「特集記事」のなかでこの時の写真を掲載し、「歴史の一コマ」と紹介した(写真はカンボジア・デーリー紙電子版から)。

若者に政権批判が芽生え

カンボジアの人口は現在、1,600万人弱。大雑把に言うと、10・30代が人口の50%を上回る。高齢者社会の日本とは全く逆なのだ。フン・セン政権以外は全く知らないこういう若い人々の間で、汚職、縁故者びいき、職権乱用、土地の強制取り上げ、森林破壊などへの関心や批判が芽生えてきていることがこの地方選挙にも反映されているようだ。



野党、メディア、NGOを弾圧

政権側は反政府勢力への締め付けも一段と強化している。警察は9月3日早朝、数百人の警官を動員して、最大野党、救国党のケム・ソカー党首の自宅を襲い、同氏を「反逆罪」容疑で逮捕した。政府が2月に訴追をさせて海外亡命中のサム・レンシー党首(当時)の逮捕状を取り、帰国を不可能にしたため、ケム・ソカー氏が党首を引き継いだばかりだった。同氏が有罪とされると党の活動も禁止される。来年7月末の総選挙で与党人民党に対抗できうる野党が存亡の危機に立たされることになった。(3頁右段に続く)⇒

(1 頁からの続き)

全員が日本語であいさつ (続)

ちょっとびっくりして聞いてみると、ことし 1 月以来、プノンペン大学の日本語科の学生 3 人が毎週土曜日、同校で午後 1 時から 5 時までの 4 時間、10、11 年生 130 人全員が日本語講座を開い



ているという。この秋、同じ敷地内の高校に進学する 9 年生もこの講座への参加を求めたが、とりあえずは高校生だ

けを対象にしている。写真は「こんにちわ」と日本語で迎えてくれたプラティアート高校生徒たち。

会話ができるまでにはなっていないが、それでもときどき、「はい」と日本語で積極的に応じる生徒もいた。KEAF の前身、CEAF 時代から、故郷の教育再興に力を注いでいるコン・ボーン氏がこのプラティアート中高校の近くの生まれということから、同氏がプノンペン大学に掛け合って実現したプロジェクトだということだった。

校舎建設があちこちで進行

コンポントゥラバイ高校、プレアンドン高校、プロモルプロム高校、タッコー高校はこの 1、2 年の間に小中高一貫教育体制を整え、2 部授業解消に向かっている (会報 2017 年 6 月 87 号)。



コンポントラバイ高では、校庭がすっかり掘り返され、新校舎の建築が始まっていたし (写真)、校庭の裏手で

は、4 階建ての生徒用寄宿舍、教員宿舎も建築中だった。プレアンドン高でも、昨年暮れ、サッカ

ー教室を開いたグラウンドをつぶして新校舎の基礎工事が始っていた。

このように目に見えて教育のインフラ面でも充実してきているが、国道を外れた田舎に行くと、まだまだバンテイチャクライ中学のように、校舎の屋根・壁がトタンで床は土間のまま、電気もない薄暗がりのなかでの授業だったりする。学校側は教育省に校舎新築の申請をことし出したばかりだが、今のところ、計画が実現する見通しは全くない。(池内)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

(2 頁からの続き)

野党、メディア、NGO 弾圧 (続)

20 人前後の野党系政治家たちがきびしい監視にさらされているという。昨年 7 月には、政権批判を強めていた政治評論家のケム・リー氏がプノンペン市内のガソリンスタンドでコーヒーを飲んでいるとき、ひとりの兵士に射殺された。

8 月 23 日付のカンボジア・デーリー紙によると、フン・セン首相は、同紙に対し、過去 10 年分の税を滞納しているとして 630 万ドル (約 6 億 9,000 万円) の支払いを求め、同紙は支払不能として納入期限の 9 月 4 日、廃刊に追い込まれた。

また野党系のラジオ局が 7 月、放送認可を取り消され、その他のラジオ局は米国系のヴォイス・オブ・アメリカやラジオ・フリー・アジアのプログラムを放送することを禁じられた。1992 年以来、カンボジアでの選挙監視などの活動をしてきた米国の NGO (The National Democracy Institute) の活動停止と外国人職員の国外退去を決めた。

選挙中止？ 終りの始まりか

野党側はこれら一連の動きをフン・セン首相の弾圧政策が「変化」しつつある、と警戒を一層強めている、来年の総選挙は 7 月 29 日に実施することを首相はとりあえず決めたが、こうした弾圧政策を一層、強めるのか。場合によっては、来年の総選挙を実施させないのではないかと、そうなれば、これは終わりの始まりだというような憶測まで早くも出始めていて、カンボジアの政治情勢は目を離せない状況になっている。(池内)

ありがとうございました

(2017年5月25日ー8月31日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます（敬称略させていただきます）

(東京) (神奈川) (神奈川) (東京) (東京) (東京)
(東京) (東京) (神奈川) (東京) (東京) (東京)
(神奈川) (大阪) (東京) (福岡) (神奈川) (大阪)
(東京) (京都) (奈良) (兵庫) (神奈川)
(神奈川) (大阪) (東京) (千葉) (千葉) (東京)
(東京) (東京) (千葉)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています ※写真つき奨学生紹介の4,5,6,7頁は個人情報保護のため省略

◇物品支援ありがとうございました

- ・ (東京) : 運動衣、文房具類など。

デジカメ支援が9台になりました

7月の訪問では奨学生面接のほか、各学校に文具類、補助教材、衣類などいつものように様々な支援品を届けました。デジカメ3台をタッコー（下の写真）、プロモルプロム両高校とアスペカ養護施設に配り、大喜びしてもらいました。小型が2台、大型の1眼レフが1台です。

カンボジアの農村でも昔ながらのフィルム式カメラにデジカメがとって代わるようになっていて、各学校から強く支援を要望されています。これまでに何人もの会員や支援者の方々から提供を受けて訪問の度に配るようになっており、今回の3台で配布数は9台になりました。

ご支援くださった方々には改めてお礼を申し上げます。

新型に切り替えるなどしてリタイアしたデジカメをお持ちの方がおられたら、提供して頂ければありがたいです。

学用品・カバン類

子どもたちが喜ぶのは何といてもノート、鉛筆、ボールペンなどです。ただ、ノート類は重くなるので沢山は持っていけません。子どもの衣類も人気が高いのですが、これもかさばるし重いので少しずつ。手提げかばん、トートバッグ、ハンドバッグのカバン類も多数の支援を頂いています。小型のものにはノート、エンピツなどの学用品を入れたり、奨学生の通学用に配ったりして活用しています。中型から大型は主に先生用。婦人用バッグは女性の先生が大変喜びますし、男の先生は奥さん用に欲しがります。

◇第19回総会を開きます

多数の皆さんのご出席を待っています

カンボジア教育支援基金（KEAF）の第19回総会を11月12日（日）に開催します。会議は午後2時から5時まで。会場は昨年と同じく東京都新宿神楽坂近くのセントラルプラザ10階、東京ボランティア・市民活動センターです。1年間を振り返りつつ今後の活動をどう進めていくかを気楽に話し合う場所です。

出席資格があるわけはありません。会員、支援者、KEAFの活動、あるいはカンボジアに関心をお持ちの方ならだれでもOKです。多数の出席をお待ちします。

例年、何人もの方々の出席を得て意見交流をしたうえで、懇親を深めています。



会場案内

162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ10階

東京ボランティア・市民活動センターC会議室

JR総武線・飯田橋駅下車。新宿駅側から行くと左側（東京・御茶の水側からは右側）に線路に接するように建つ20階建てビルがセントラルプラザ。下車2〜3分。

◇ホームページを観てください

HP <http://keaf-japan.com> の充実を進めていて、現地の子どもたちや学校、村の様子を紹介する写真や音声付きのリポートが随時、掲載されるようになりました。

会報『カンボジア通信』バックナンバーの掲載も、あと63号と64号を残すだけです（近く掲載します）。